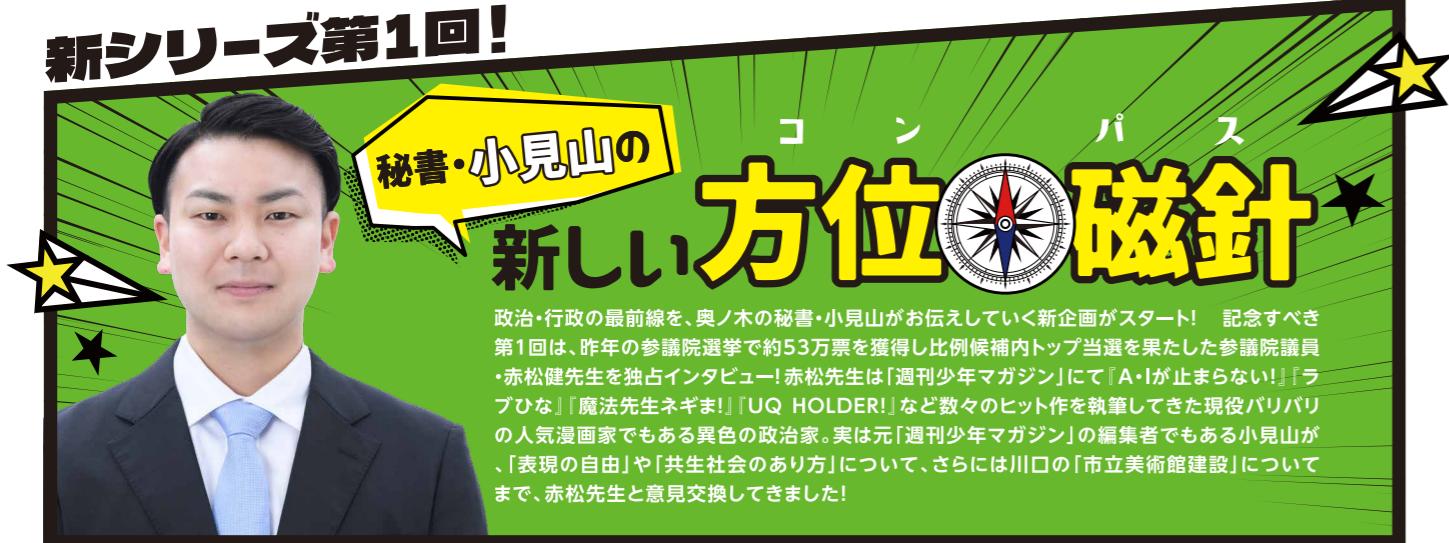


新シリーズ第1回!



秘書・小見山の

小見山の 新しい方位 磁針

政治・行政の最前線を、奥ノ木の秘書・小見山がお伝えしていく新企画がスタート! 記念すべき第1回は、昨年の参議院選挙で約53万票を獲得し比例候補内トップ当選を果たした参議院議員・赤松健先生を独占インタビュー! 赤松先生は「週刊少年マガジン」にて『A・Iが止まらない!』『ラブひな』『魔法先生ネギま!』『UQ HOLDER!』など数々のヒット作を執筆してきた現役バリバリの人気漫画家でもある異色の政治家。実は元『週刊少年マガジン』の編集者でもある小見山が、「表現の自由」や「共生社会のあり方」について、さらには川口の「市立美術館建設」についてまで、赤松先生と意見交換してきました!

小見山 「場作り」って奥が深くて難しいなと思うんです。美術館の基本計画には「文化芸術の創造・発信拠点」と書かれているのですが、言うは易い行は難しで、真に市民に開かれて愛される施設になるのか、これから試されていくわけです。赤松さんは第線の現役作家でもあるわけですが、理想の美術館って、どんなイメージですか?

赤松 うーん、そうだなあ。「住民が誇りに思っている」ということが根本にないダメですよね。全国にある漫画ミュージアム的な施設とか、あるいは漫画にまつわるモノコメントなどを沢山見てきて、そう感

小見山 次は「リアルの場」をどう作つていくかについてお聞きます。私の働く川口市は、鋳物や植木といった産業が伝統的に栄えつつ、近年は東京に隣接するベッドタウンとして人気で、ついに人口60万人を超える中核市となりました。そして今、文化的にも豊かな市民生活を実現するため、「市立美術館の建設」と「駅前音楽ホールの大改修」が計画されています。つまり、「場作り」を意識しているんですね。

「理想の美術館」には、読り、「が
必要一

には「〇〇だよ」つい教えへくれる(笑)。ネット上の集合知をすぐに検索して取り出せるのって、若い世代の能力だと思うんですよ。そういう世代がこれから世界に打って出ようとしている時代に、それを大人が過度に規制するのは古いですよ。「これだけ新しい技術が日々生まれている中で、「なんだかよくわからないけど危なそう」みたいな曖昧な理由一律に禁止してしまって、後から追いつけなくなることが問題です。これからは教育現場でも、子供がスマホやパソコンを「どう上手く使つてらるか」を見て、評価してあげるべきだと思います。

小見山 最近は地方に移住する若者や、いわゆる「**拠点生活**」をするフリーランスや経営者も増えて、「**どこに住むか**」といつづりの自由度が増してきましたよね。赤松さんは比例代表だから選挙区は「**日本全国**」なわけですが、赤松さんの故郷というか、ホームタウンはどちらなんですか？

赤松 芸術作品を生み出せたら面白いなあと。その美術館発のアートの中から、高く評価されるもの、スーパーヒット作みたいたいものが出来たら最高ですね。

赤松 あはは、検討します（苦笑）。

小見山祐紀 こみやま ゆうき

1987年4月22日生まれ。川口市長・奥ノ木信夫の政務担当秘書。前職は漫画編集者で、元「モーニング」副編集長。主な担当作は、『宇宙兄弟』『ダイヤのA』『聲の形』『はたらく細胞 BLACK』など。

＜ご意見 ご感想＞

小見山のメール

info@komiyamayuuki.jp

または Twitter までぜひお寄せください



参議院議員・漫画家

赤松健

©赤松健 / 講談社



赤松健 プロフィール

赤松健 プロフィール
1968年7月5日生まれ。主に「週刊少年マガジン」誌上で漫画の連載を続け、そのほとんどがアニメ化・自作品の国内外あわせた累計発行部数は5000万部を超える、日本漫画界が誇る大人気作家。「表現の自由」を守るために、2022年の参議院選挙に自民党から立候補し、初当選。

みたいなものを覚えるのも大変で、
小見山 スポーツで言えば、競技ルールを学んで
いる状態ですね。

小見山 よく分かります。白黒つけない問題に「落とし込み」を作つてこなのが政治だと思つてゐるのですが、昨今の政治はすぐ「〇か一〇〇か」の議論で、極端な一項対立になつてしまふことが多いのです。

子供はインターネットを使い倒すべき!

赤松先生（以下、敬称略）宜しくお願ひします
小見山さんは以前、週刊少年マガジンの編集者だ
たんですね？

小見山 はい。赤松さんがマガジンで『魔法先生
ネギま！』や『UQ HOLLOW!』を執筆され
ていた頃、僕も編集部にいました。『ダイヤのA』
や『聲の形』の担当でした。今日は漫画家と編集者
ではなく、参議院議員と川口市長政務秘書として
お会いしているのが不思議な気分です（笑）。

赤松 ははは（笑）。

**「表現の自由」を守るために、
約53万票でトップ当選！**

小見山 赤松さんは長年、マンガやアニメやゲーム
に対しての、行き過ぎたジレンダー論などから来る
表現規制の圧力と戦ってきました。そして昨年つい
に、「表現の自由を守る」というスローガンで参議院
議員に立候補され、約53万票を獲得して比例候
補内トップで当選！華々しくテレビされて約1年
が経ちますね。ズバリ、やりたかったことをやれて
いますか？

赤松 「はい！」と力強く言いたいところなんですが、
実際はなかなか地道ですよ。国会では質問が
つづるにも、「問取り（質問取り）」があつて（通
告（事前通告））があつて…。最初はそういう「作法

赤松 そうですねえ。私の場合は、「100%の勝ち」を求めないと、何うしてもうか。自分の価値観と、相手の価値観と、ほんとに譲歩しあつて、折り合いを付けるといふか。仮に、3割負けたって、7割勝てば良いし。もつと云ひれば、仮に7割負けたって、本当に大事な3割を死守できていれば良い局面もあるだらうと思ひますよ。

小見山 なるほど。

赤松 でも政策の話になると、それを許してくれない方もいて…。「10割勝たなきやダメじゃないか」と怒られることが多いんですが、なかなかそ う上手くはいかないのでね。

